

なおこ's VOICE 9月5日開会の飯能市議会9月定例会が9月30日に閉会いたしました。新井市長2期目当選後の初めての議会となります。緊急財政対策下という非常に厳しい状況ではありますが、手腕をふるい飯能市を前に進めていただきたいと心から願っております。

飯能市緊急財政対策はどこまで進んでいるの？



関田がチェック！

すでに令和7年度当初予算や補正予算にて少しずつ「事業」が無くなっている状況です。

例えば、今回の議会で議決

されたのは「90歳表彰・約60万円」の廃止がありました。より具体的な方針は令和8年度予算にて見えてきます。(3月定例会)

今後の大まかな流れ

【令和7年】(8月)「事務事業見直し検討シート」公表 ▶ 各課とのヒアリングや職員プロジェクトチームによる検討で内容精査 ▶ 最終的には市長を本部長とする対策本部で見直し方針案決定 (10月)「事務事業見直し検討シート(2回目)」公表予定 ▶ 令和8年度当初予算案の編成開始 (11月)市議会に令和8年度当初予算案の要求状況等を報告予定 (12月)市議会12月定例会にて使用料及び手数料の見直し等に係る条例改正案&補正予算案等を提出予定

【令和8年】(2~3月)議会に緊急財政対策プランの目標達成見込み&令和8年度当初予算案の概要等を報告予定 ▶ 「事務事業見直し検討シート(3回目・確定版)」公表予定 ▶ 市議会3月定例会にて、財政調整基金の過度な繰入れに頼らず編成した令和8年度当初予算案を提出予定(※詳細は飯能市HP参照)



飯能市は財政調整基金、例えるなら「市の預貯金」が少ない状況です。災害など思いもよらない急な出費に耐えられないかもしれない、という事です。財源が少ないのは違いないのですが、財政破綻のような状況ではありません。

一般質問で聞いてみました！

「緊急財政対策下における市長2期目の市政運営」とし、市長の公約や進行中の事業の中から数点取り上げ質問をいたしました。主な内容を抜粋して掲載いたします。

① 給食費無償化について



6月定例会にて市長より「検討せざる得ない」旨の答弁があった。現在、調理施設の整備や委託費は小・中学校あわせ合計約3億3800万円、更に食材費高騰支援で約430万円を公費で負担。現在保護者が負担している「食材費」分は約3億7300万円で、合わせて、年間7億円以上が必要な事業。来年度より国の制度として小学校から給食無償化が実施される見通しだが、現段階でははっきりと決定していない。無償化を実現させるためのお考えと課題について伺う。



令和8年度4月から、小学生を対象に開始。但し、国の補助がある事が前提。主な課題は

財源・財政負担、公平性の確保。その他、給食無償化以外でも公会計化、人材の確保、組織体制の見直し、給食施設・設備の老朽化なども付随してくる課題と認識。

POINT 質問をして、財源が決まらない限り、細かい方向性は示すことができない事がわかりました。給食費だけではない【教育費】の費用もしっかり確保していただくように訴えさせていただきました。

② 久下六道線整備事業



久下六道線の様子

開会日に市長から「緊急財政対策において取捨選択する中でも進めていく事業」との発言があった。また、安心安全な道路整備の必要性、拡幅により火災時の延焼防止など、防災面からも必要である事を理解した。しかし、この事業を含む普通建設事業に対し「地方債を活用できても後年度にわたり元利償還金を支出する。既に人口減少が始まり、次世代の市民負担となる事を強く認識し、義務的経費として財政硬直化の要因とならないよう慎重に判断する」との考えが示されている。久下六道線に関する地方債の交付税措置率と実際の財源内訳、事業の概算額を伺う。

市 移転補償費や無電柱化を含む工事費は概算で25億円。今後の調査や設計により変動する可能性がある。事業費の概ねの財源構成は、国庫補助金が50%、地方債が45%、一般財源が

5%。想定している「公共事業等債」を活用した場合、元利償還金に対する交付税措置率は約22%で、総事業費に対して約10%相当。このことから、総事業費に対する最終的な負担割合は、国が約6割、市が約4割となる。

久下六道線拡幅事業 財源内訳

総事業費 約 25 億円

国庫補助金	交付税	元利償還金 (地方債の返済)	一般財源
約 60% 国が負担 約 15 億円		約 40% 市が負担 約 10 億円	

POINT この整備によりどのような「まちなか」になるのかのイメージができず、疑問を持たれている方も多いのではと感じております。「飯能まちなか未来ビジョン」を進める上で、重要な要素の一つとして、基盤となる久下六道線の整備を進めるものである、との答弁も頂きました。

③ 飯能市立第一小学校等複合施設整備



新校舎のイメージ

現在、補助金獲得を見込んでいる国庫補助金は単に事業を行えば交付を受けられるものではなく、将来のまちづくりの戦略的な視点をもって取り組む必要がある。財源確保のためのエリア戦略をどの様に

イメージしているのかを伺う。また、事業概算費用を伺う。

市 「飯能市立図書館」「山手保育所」「子育て総合センター」といった、文教施設、保育施設、こども・子育て支援施設が集積していることから、地域交流の中核的なエリアとして、相乗的な効果を発揮できるエリア戦略を描いている。設計、仮設校舎、旧施設の解体を含め概算で90億円。但し、今後変動する可能性がある。

POINT 建築工事に関する費用の上昇もあり、大きな予算額となります。児童の教育環境として申し分ないものとなるよう、そして、この先何十年とあり続ける、地域のみならず飯能市にとってシンボリックな施設となる事を願ってやみません。

④ 加治東小の放課後児童クラブと子育て環境について

学童の外観



市 市長公約の一つである放課後児童クラブの充実化。市街地の児童クラブは整備されつつある。しかし、加治東小学校区の児童クラブに関しては区画整理による児童数増加を見込み、何年も前から増設等の要望を出すも、適切な場所がないなどの理由で対応が遅れている状況。現在は既存の施設と地域内の神社社務所をお借りし暫定的に運営している。小学校の空き教室利用案も出たが、今後の児童数増加等を考えると教室利用

は難しいとの見解。運営者である保護者及び支援員は方向性が見えない状況に不安が募っている。現時点での市の考え方を伺う。

市 こどもや保護者が安心・安全に放課後児童クラブを利用できるよう、また、支援員にとっても運営しやすい施設となるよう、課題を整理し、運営者と協議をして早期に方向性を決めたいと考えている。

POINT 答弁は厳しい内容ですが、市長を筆頭に担当課で様々な協議をしていることに間違いはございません。引き続き注視し、推進してまいります。



子育て中のご家庭が増えている地域においては放課後児童クラブだけではなく、全体的に考えていく必要がある。加治東、加治地区にはこどもの人数は相応数いるにも関わらず、児童館のような施設はない。市として新たな建物は作らない方針であることは理解しているが、区画整理を終えた、もしくは現在進行形の新たな街に、子育て世代から要望の多い児童館を希望する。地区行政センターを児童館併設の施設にする等して、子どもたちが自由に集える新たな居場所を検討いただきたい。

市 現在、予定はないが、こどもの居場所という観点からは、子育て支援の充実と、地域コミュニティの拠点形成を通じた地域全体の福祉向上という、市民生活において極めて重要な視点である。新たな建物を建設は、財源確保の現実性、長期的な行財政運営の視点と合わせて総合的に検討する必要がある。今後、市長が掲げる「切れ目のない子育て支援」を推進していくため、現在ある公共施設、加治東や加治地区行政センターと児童館の併設施設などへの転換を含め、研究していきたい。

飯能の最近気になること

① 飯能の森の生物多様性保全

～森林文化都市だからこそ生物多様性の維持、回復又は創出に繋がる活動を～

■ 第7次飯能市森林整備計画では、ゾーニングされた「公益的機能発揮森林」では複数回の間伐による針広混交林化を進め、生物多様性を含む森林の持つ公益的機能の増大を図ることとしています。この方針を踏まえ、下名栗の滝ノ入市有林において、針広混交林化をより効果的に進めるための実証実験をすることとなりました。

■ 飯能市の森林に適した針広混交林化の形を研究し、その成果を他のエリアへも波及させ、市全体として森林の生物多様性の保全に取り組んでいきます。また、本年4月に施工された地域生物多様性増進法には**ネイチャーポジティブ（自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること）**の実現に向けた方策として、自治体、企業、NPO に市民にと連携の必要性が掲げられています。

■ 民間企業等にとって、ネイチャーポジティブに向けた取組はもはや CSR 活動ではなく、事業活動を継続させるための必須の要素となっていることから、多くの森林を抱える本市としても積極的なアプローチに踏み切るタイミングです。

■ 埼玉県がネイチャーポジティブの実現に向けて令和7年度に設置した「埼玉県ネイチャーポジティブ推進分科会」にも参画を表明しており、今後開催される企業や環境保全団体等とのマッチング交流会において、まずは市有林における連携や協働に向けた準備を進めているところです。

POINT 生物の絶滅は100年前には1年間に1種、50年前は1年間で1000種、今では1年間に4万種のペースで生物が絶滅しているとされています。

② 名栗小学校 PTA の取り組み

■ 市内、特に山間地は少子化により小中学校の閉校が続きました。学校が無くなることは地域にとって大きな喪失感に繋がります。中学校が閉校した名栗地区もその一つ。

■ 小学校を守ろう！とPTAと地域が一つとなって、名栗小学校を舞台としたミュージカル短編映画が完成いたしました。『Small is Beautiful ～ちいさな小学校と、ちいさな願いの物語～』。短いながらも内容がギュッとつまった温かい映画です。今後、多くの方に見ていただける機会が増えればいいなと思います。

映画の上映会の様子



飯能駅のムーミン



③ 「ムーミンに会えるまち、はんのう」をもっともっと盛り上げたい！

■ 昨年の令和6年8月に飯能市、株式会社ムーミン物語、西武鉄道株式会社の3者で地域活性化に向けた連携に関する基本協定を締結しました。まずは、今年3月に飯能駅改札前に「ムーミンオブジェ」が設置されました。

■ せっかくの協定ですので、もう少し盛り上げればなと感じています。例えば、釣りが好きで川辺に住むスナフキンを飯能河原に設置するなど、ムーミンキャラクターたちが街中にいたら、ファンにとってたまらないのではないのでしょうか。ウォーカブルを目指すまちとして、自然豊かな飯能の散策にエッセンスが加わると、より楽しくなるはずです。